

令和3年度教育事業

「ボランティア養成セミナー」【R3.5.1(土)～2(日)】

◆目的

- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
- ・今年度の教育事業の特性に応じた体験活動についての知識や技能を習得する。

◆参加実績(募集20名程度)

参加14名(男性7名 女性7名)

- ① 年齢
- 10代: 8名
  - 20代: 4名
  - 40代: 2名

② 職種別

- 高校生 3名
- 大学生 9名
- 社会人 2名

◆プログラム

<1日目>

午前

- ・【講義】「青少年教育」(オンライン)

午後

- ・【講義】「ボランティア活動の意義」(オンライン)
- ・【講義・演習】「ボランティア活動の技術」

<2日目>

午前

- ・【講義・演習】「安全管理・救命救急法」

午後

- ・【講義】「青少年教育施設の現状と運営」
- ・【講義】「青少年教育施設におけるボランティア活動」

令和3年度 教育事業  
国立若狭湾青少年自然の家  
ボランティア養成セミナー  
とりあえず、やってみない?

先輩ボランティアからの一言  
・「子どもと一緒に自分も成長できた」  
・「いろんな人と出会えた」  
・「これから何をやるか悩む程だった」

【ボランティア養成研修申込QRコード】  
参加希望の方は、こちらのQRコードを読み込み、WEBからお申込みください。  
申込締切: 4月22日(木)

※開催日が変更になる場合は、HPにてお知らせします。  
HPを随時申し込みをお願いします。

開催日: 令和3年5月1日(土)～2日(日)  
会場: 国立若狭湾青少年自然の家  
参加費: 2,500円(食事、保険等)

ボランティア養成セミナー実施内容

6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
10:00-11:00	11:00-12:00	12:00-13:00	13:00-14:00	14:00-15:00	15:00-16:00	16:00-17:00	17:00-18:00	18:00-19:00	19:00-20:00	20:00-21:00	21:00-22:00	22:00-23:00	23:00-24:00	24:00-25:00	25:00-26:00	26:00-27:00	27:00-28:00
開会式	青少年教育の意義	ボランティア活動の意義	ボランティア活動の技術	安全管理・救命救急法	青少年教育施設の現状と運営	青少年教育施設におけるボランティア活動	質疑応答	閉会式	懇話会	自由時間							

※ボランティア養成セミナー終了後、法人ボランティアに登録すれば、若狭湾青少年自然の家以外の全国の国立26施設でも旅費などの補助を受けてボランティア活動を行うことができます。

【問い合わせ先】  
〒917-0198 福井県小浜市田島区大浜  
TEL: 0770-54-3100  
本事業担当者: 岡田(おかだ)、井石(いし)



#### ◆成果

- ・高校生を始め、幅広い世代から参加があったことは、地域の教育力向上に資するものになったと考えられる。
- ・アンケート結果より8割以上の参加者が事業に対して満足と回答していることから、法人ボランティアについて理解したことが伺えた。
- ・グループワーク等で参加者間の交流を図ることで、「ボランティアは自分自身が成長するチャンスでもあり経験でもあると思った」等、新たな価値観を得る機会を用意することができた。
- ・コロナ禍での活動を提供するには、事前に参加者への情報提供や運営側の準備物等に配慮が必要かを体験を通して提供することができた。

#### ◆参加者の声

- ・人との繋がり的重要性を強く感じ、人の心を動かすことは誰にでもできると気づかされた。自分に出来ることを探そうと思った。
- ・現実・実用的な技術面での進歩もちろん大事だが、ボランティアに対する姿勢が学べた。
- ・家ではボタン一つ押すだけで米がたけたり、火をつけてみたりできるが、火を自分達でやると時間がかかったり匂いがついたり大変だと感じた。
- ・ボランティアに参加したことがなくて初めて体験することばかりでした。人との関わりが重要なので、コミュニケーション能力を身につけなければならないと思った。
- ・楽しさ・すごさを知っていると思っていたが、まだまだ知らないことがあって面白かった。
- ・日頃意識しないようなことに気付くキッカケになった。
- ・恥ずかしさがボランティアを妨げる。少しの勇気が行動を変えることができました。
- ・薪の組み方・テントの立て方・熱中症への対応など初めて体験することばかりで、学びにあふれた2日間でした。
- ・参加する前と後では全然自分が違っている。沢山の事を学び次回以降に活かしていきたいと思った。
- ・自らが行動して、沢山のキッカケを見つけられたらと思った。

#### ◆事業運営のツボ・工夫・反省

- ・「青少年教育」については、機構本部職員を講師とし、「ボランティア活動の意義」については大学職員で野外活動を指導している人物を講師とすることで、法人ボランティアについての理解や役割等多方面から知る機会を設けた。また、コロナウィルス対策として講師とはオンライン講義とした。
- ・オンライン講義には、主とバックアップ、カメラ用として2台PCを使用し円滑に講義が行えるよう努めた。
- ・スタッフに先輩ボランティアを加え活動について等参加者に近い立場からの声が伝わるよう計画した。
- ・入口での消毒、室内の換気を適時行い、受講者の位置取り等密にならないように配置した。
- ・新型コロナウイルス対策として、事業一週間前から参加者には、毎日の検温や体調管理を依頼し、受付時にも確認を行い参加者の体調把握に努めた。